

準硬式野球とは？

野球ファンでなければ、現在はなかなか馴染みのない準硬式野球。かつては子どもから社会人までプレーしていたが、現在は大学生がメインで、他は関東地区の一部の社会人チームや大阪の中学生と限られた環境での野球となりつつある。しかし、大学準硬式野球界からプロ野球選手が何人も誕生するなど、野球レベルや盛り上がりは実は高いのだ。

大学で盛んな準硬式野球

準硬式野球は、硬式野球と軟式野球が盛んにプレーされているなか、「使用感が硬式ボールに近くて、尚且つ手軽に遊べるボール」を目的に、1949年に新たなボールが完成したことが始まりです。準硬式野球が徐々に国内に広がる中で、1番盛んに準硬式野球が行われているのは大学だと言われています。全国の大学に準硬式野球部があり、全日本軟式野球連盟の下部組織（全日本大学軟式野球協会）の一つとして全日本大学準硬式野球連盟もあります。ちなみに、全日本大学準硬式野球連盟の加盟校と登録選手数は、全日本大学軟式野球連盟のそれよりも多いのです。

東海地区の準硬式野球

昨年度の東海地区準硬式野球 秋季リーグ戦加盟校は、全部で32大学。1

ちを持って入部し、勉強と野球の両立を無理なく目指すのだそう。チームの運営や管理もほぼ学生主体なので、組織力も鍛えられます。

愛知県内の大学では、1部リーグに属する大学は選手の実力も高く注目チームです。その中でも成績上位の中京大学や名古屋商科大学、そして準硬式野球部では珍しい専任コーチがいる名城大学等が注目です。

準硬式野球の大会と選手

主な大会は、大学生を例にあげると、野球部単位で出場する全国大会が2大会（簡単に例えると高校野球でいう甲子園のような大会）と、全国を地区連盟数の9地区に分けて各地区で選抜チームを組んで戦う大会があります。他にも大学硬式野球と同様に春秋のリーグ戦やローカル大会もあります。どんな選手がいるかと言えば、こちらも大学生を例にあげると、甲子園出場選手も多数いますし、高校時代は軟式野球をやっていた選手もいます。また、近年では2016年のプロ野球ドラフト会議にて、当時、帝京大の鶴田圭裕投手が東北楽天ゴールデンイーグルスに6位で、関西学院大の坂本工宜投手が読売巨人軍に育成4位で指名されている等、選手の実力、注目度も上がっています。

硬式と軟式との“違い”って？

Q.ボールは硬式と軟式とどう違うの？

ざっくりと言えば、外見は軟式球で中身は硬式球です（厳密には硬式と“ほぼ同じ”中身）。硬さや打球の飛び方や弾み方が硬式で、手触りは軟式という感じです。また正式には準硬式球とは存在せず現在「軟式H号球」（またはトップボール）として扱われています。



準硬式野球で使用されるボールの断面図

Q.ルールや道具は？

ルールは基本的に硬式野球と同じで、道具は硬式野球の道具を使用します。球場も硬式野球仕様の球場です。金属バットも使用できます。

協力：全日本大学準硬式野球連盟 理事、東海地区大学準硬式野球連盟 会長 鈴木眞雄氏
東海地区大学野球準硬式野球連盟 理事長 松岡弘記氏
名城大学準硬式野球部 監督 樋口義博氏



右/東海地区春季リーグ戦の1枚(パロマ瑞穂野球場)
左上/中国広州関東レオパース対東海選抜の1枚(広州市天河球場)
左下/学生委員会の学生たち



東海地区大学準硬式野球連盟より

準硬式野球は日本の大学部活では盛んに行われている競技で、とりわけ東海地区では競技人口が以前に比べ20%も増加しています。大学生は勉学に真摯に取り組むことが一番ですが、それと両立して野球を楽しみたい学生には適しています。「ハイブリッド・ライフ(二足のわらじ)」という言葉通り、勉学と野球の両面の目標を達成する道を歩んでほしいです。また、勝利至上主義ではなく純粋に野球を楽しむ、主体的な行動で準硬式野球に取り組めば、得るものは大きいと思います。準硬式野球に限らず、スポーツは自発的に積極的に行

うものと信じています。その過程で、大きく自分を磨いて立派な人材へと成長することを願います。4月2日、東海地区大学準硬式野球リーグ戦の開幕戦がありますので、是非一度足を運んでくださればと思います。



東海地区大学準硬式野球連盟 会長
会長 鈴木眞雄氏(愛知教育大学名誉教授)
▶東海地区大学準硬式野球連盟 <http://tohokai.junkoh.jp>

部から4部、そして静岡リーグ1部、2部に分類されています。ちなみに昨年度の1部所属は、中京大学、愛知学院大学、名古屋商科大学、愛知大学、名城大学、名古屋大学でした。

さらに特筆すべきは、年に1回、中日友好の大学生野球交流試合を、東海地区大学準硬式野球連盟独自で行っていること。これは、東海地区で選抜チームを組んで中国広東省に海外遠征に出向き、中国のプロ野球野球チームや地元大学と交流試合を行うというものです。今年で第7回目を迎え、活動も定着。参加した選手も野球以外の部分でも人としての成長につながるいい経験となっているようです。競技人口は東海地区の大学に限れば、1000人。準硬式野球人気も強く根付いてきて、人口数も過去に比べ、20%増加しているようです。大半の選手は、将来計画をしっかりと立てて、勉強に専念したい、でもどうしても野球がしたいという気持ち